

車両系建設機械及び高所作業車の労働災害による死亡者数の推移と令和3年における発生状況

建設荷役車両安全技術協会 本部

平成19年からの車両系建設機械及び高所作業車（以下車両系建設機械等）の労働災害による死亡者数の推移がグラフ1の折れ線グラフ、また機械の種類別の内訳が棒グラフである。

令和3年の死亡者数は46名であり、平成19年の84名と比べ、38名の減（45%減）であった。

機械の種類別にみると、とくに「整地・運搬・積込み用機械」、「掘削用機械」の減少が顕著で、この2機種で平成19年：58名→令和3年：28名に減少している。「その他の建設機械」ではコンクリート打設機械で1名発生した。

令和3年に発生した車両系建設機械等の労働災害による死亡者数は、前年の52名より6名減（12%減）となり、2年ぶりに減少に転じた。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1・グラフ2のとおりである。

機械の種類別では、「掘削用機械」に起因

するものが16名、「整地・運搬・積込み用機械」が12名と圧倒的に多く、これは例年の傾向である。「高所作業車」は8名発生し、ここ2年増加している。

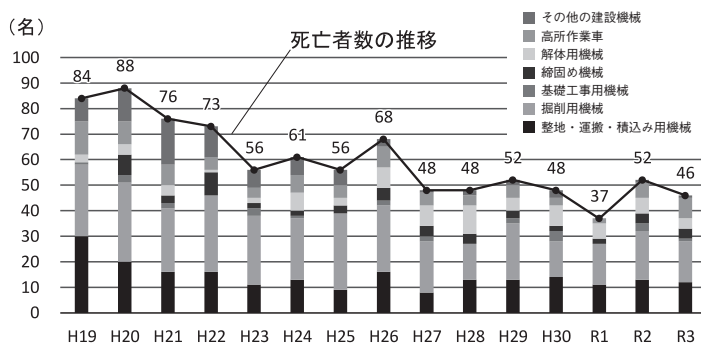
業種別にみると、「建設業」の34名が全体の約74%を占めており、例年同様であった。「土木工事業」では前年より微減し、「建築工事業」では微増した。「その他」の業種6名のうち、4名が「清掃・と畜業」であった。

次に、車両系建設機械等の種類別・事故の型別に分類したものが表2・グラフ3である。

事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」が17名、「墜落・転落」が10名、「激突され」が9名で、この上位3項目で全体の約78%を占めている。これはここ数年の傾向である。

災害事例をみると、件数が増加した「高所作業車」は8件のうち、誤操作によるものと思われる「はさまれ・巻き込まれ」が3件、また、作業中の「感電」が1件（2名）、「交通事故」が2件見うけられた。

[資料提供：厚生労働省]



グラフ1
車両系建設機械・高所作業車の労働災害による死亡者数の推移

表1 車両系建設機械・高所作業車の種類別・業種別死亡災害発生状況（令和3年）

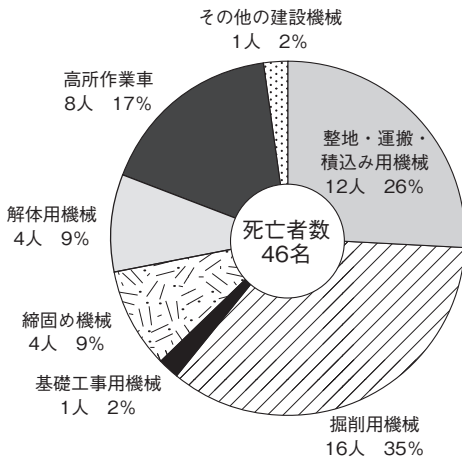
（単位：名）

業種 機械の種類	製造業	鉱業	建設業			運輸交通業/ 貨物取扱業	農林業/ 畜産業・ 水産業	商業	その他	計
			土木事業	建築工事業	その他の 建設業					
整地・運搬・積み込み用 機械	1	3	2	3	0	0	0	0	3	12
掘削用機械	0	1	11	1	0	0	1	0	2	16
基礎工事用機械	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
締固め機械	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4
解体用機械	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
高所作業車	0	0	3	1	3	0	0	0	1	8
その他の建設用機械	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
計	1	4	21	9	4	0	1	0	6	46

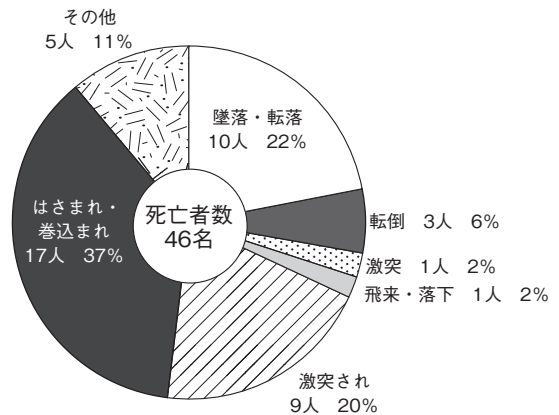
表2 車両系建設機械・高所作業車の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（令和3年）

（単位：名）

事故の型 機械の種類	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・ 巻込まれ	その他	計
掘削用機械	5	1	0	0	0	4	6	0	16
基礎工事用機械	0	1	0	0	0	0	0	0	1
締固め機械	3	0	1	0	0	0	0	0	4
解体用機械	0	1	0	1	0	1	1	0	4
高所作業車	0	0	0	0	0	0	4	4	8
その他の建設機械	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	10	3	1	1	0	9	17	5	46



グラフ2 機械の種類別



グラフ3 事故の型別